

# 令和5年度 学校法人福島県高等理容美容学院

## 学校評価関係者委員会報告書

学校関係者評価報告責任者：校長 佐藤 学

### 1 学校関係者評価委員等

- ・ 鈴木 光浩 卒業生（理容科）
- ・ 木下 博幸 卒業生（美容科）
- ・ 佐藤 学 学校法人福島県高等理容美容学院 校長
- ・ 山崎 信子 同 上 教務主任
- ・ 八巻 功寿 同 上 事務長
- ・ 青柳 朋美 同 上 主事（広報担当）

### 2 委員会の開催状況

開催期日等 令和5年6月26日（月） 9時55分～ 本校会議室

### 3 学校関係者評価委員会報告

#### ① 学校の教育目標

- ・ 教育基本法及び学校教育法に基づき、理容師、美容師育成施設として時代の流れを鑑み、実社会に対し得る人材育成を行うことを目標とする。
- ・ 地域社会における保健衛生の担い手である理容師、美容師として必要な能力を育成する。
- ・ 今、何をなすべきかを自ら考え、自ら行動できる人材を育成する。
- ・ 接客業を目指す上で、社会的秩序を守る以上の礼節の心を身につかせ、心から挨拶のできる人材を育成する。
- ・ 接客業において、必要不可欠である「奉仕・仁愛・感謝」の心を持つ人材を育成する。

#### ② 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・ 当学院の卒業生は、高度な知識と技術を修得していることの評価から就職活動はスムーズに行われている。県内外の理容・美容関係者と連携を密にし、就職希望者をフルサポートする。
- ・ 少人数教育において、経験豊かな教師が学生の一人一人の理解度に合わせ、きめ細かな指導を行い、実技を身に付けることや学力向上に繋げていく。
- ・ 高等教育の無償化や奨学金制度の充実など教育環境を整備に努めていく。

#### 4 評価項目の達成及び取組状況

##### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来像を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

##### ① 課題

- ・就職してすぐ役立つ「挨拶」や「清掃徹底」などを指導していきたい。

##### ② 今後の改善方策

- ・各担任がいろいろな仕掛けや考えを実行し、全生徒が率先してできるよう全員でフォローし合う。
- ・「学校訪問」や「オープンスクール」の内容を見直し、学院の魅力を業界・学校関係者等に広く情報提供していく。

##### ③ 特記事項

- ・理容師、美容師を目指す新卒者、社会人、修得者等を広く受け入れるための学科等を開設しており、当学院において理容師、美容師として免許を取得し、実社会での活躍を期待している。

##### ④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし

##### (2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1

・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	②	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に対する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・生徒のSNS活用を進めたい。
- ・SNSを活用し、生徒の作品をリポストしたり生徒の意見を求めたい。
- ・入学者数定員の充足率向上が必須である。

② 今後の改善方策

- ・TikTok等いまだにやっていない事へのチャレンジ
- ・学校運営に関する諸課題について、あらゆる視点から検証し見直しを行っていく。

③ 特記事項

- ・学院内部の情報システムは整備されている。

④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施さ	④	3	2	1

れているか				
・関連分野の企業・関係施設等業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技・実習等）が行われているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	4	③	2	1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・理容科・美容科併設校の強みを発揮できないか。
- ・理容科・美容科併設校である強みを生かした授業をしていきたい。

② 今後の改善方策

- ・理容科・美容科の内容をうまく共有し活動していきたい。
- ・理容科だけ、美容科だけにこだわらず、いろいろと生徒に実のある授業をしていきたい。
- ・業界との情報交換を行い、業界の流れや消費者のニーズ等を把握し、必要に応じ随時対応していきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし

(4) 学習成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・就職ガイダンスも再開され、選択の幅が広がるので継続していきたい。
- ・少子化で入学者も減少傾向にあるが、学生が少ない中、卒業生は業界にとって貴重な人材であるので退学者はなくしたい。

② 今後の改善方策

- ・次年度も就職ガイダンスが予定されているので、実施していく予定である。
- ・各学生とのコミュニケーションを図る。
- ・経済的理由による退学者を減らすための各種支援を引き続き行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1

・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携している	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・生徒1人1人に寄り添った指導、できない生徒へのフォロー

② 今後の改善方策

- ・個別面談や日々の生徒観察
- ・生徒の習熟度に応じた個別指導
- ・経済的理由による退学者を出さないための支援

③ 特記事項

- ・各生徒に応じた各種制度の情報提供、相談等により適切な学生支援を実施している。
- ・主な各種制度：  
福島県高等学校就学支援の実施、  
令和4年度から日本学生支援機構の給付型奨学生、福島県授業料減免補助事業の実施

④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・施設・設備は、教育上の必要に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1

・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備されているか	4	3	2	①
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・新型コロナウイルス感染症の発生防止
- ・CO2 測定器を活用し換気を随時行う。

② 今後の改善方策

- ・新型コロナウイルス感染症への対応が緩和されてきているが、生徒が安心して学生生活を送れるよう引き続き衛生管理に留意していきたい。

③ 特記事項

- ・オンライン授業関係設備の整備（令和3年度）

④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・生徒が減少傾向にある。
- ・他地域の理容、美容学校を受験する生徒も多く見受けられる。
- ・少子化により他業種との競合が今後一層厳しくなることが予想される。

② 今後の改善方策

- ・オープンキャンパスの告知、生徒たちの協力、各理容所・美容室の協力、
- ・学生たちとのコミュニケーションで学院の良さを伝える。
- ・高校側と連携しながら、専門学校に進学するメリットと支援制度について、生徒・保護者への情報提供や理解を図っていく。

③ 特記事項

- ・オープンキャンパスの実施
- ・学校訪問、ホームページ、広報紙、ユチューブを活用したより効果的な情報提供

④ 学校関係者評価委員のコメント

・委員) 理容組合では、高校に出向き体験学習を実施する予定と聞いている。卒業生と生徒のコミュニケーションなどを通して理容業を理解してもらうことにより、学院への入学希望者の増加や業界の後継者育成にも繋がるのではないかと。

学院) 進路ガイダンスなどでは、当学院の卒業生等が当ガイダンスに直接出向き、当学院の概要等について説明している。組合の事業等とも協力していればさらによいと思う。

委員) 中学生の職業体験の一環として、美容室でも体験学習が始められている。

中学校に対する学院の案内を提供されているか。

学院) 県北地区の中学校に対し、オープンキャンパスの案内やパンフレットを送付している。その結果、オープンキャンパスへの参加者も増加し、成果が出てきている。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	②	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	③	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

- ・生徒減少での運営は厳しいが、予算内での有効活用や予算の見直しも必要でないか。
- ・生徒が少ない。特に理容科希望者が少ない。
- ・生徒・卒業生にも口コミ依頼。ポスター掲示。

② 今後の改善方策

- ・他の学校より安価となっているが、物価上昇のおり見直しも必要でないか。
- ・広報活動等を通して学院の特色を情報提供し、生徒数の増加を図る。
- ・引き続き経費の節減に努める。

③ 特記事項

- ・会計処理関係については、会計事務所に委託している。

④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし



(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	③	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 課題

- ・自己評価結果による問題点等を検証する。

② 今後の改善方策

- ・自己評価結果を踏まえ、今後の学校運営等に役立てる。

③ 特記事項

- ・法令遵守、情報公開等は適切に行われている。

④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

- ・献血協力はしているが、年3回実行できた年がない。
- ・コロナ禍ではあったものの地域小学生との交流は実現できた。通常体制になってほしい。

② 今後の改善方策

- ・献血について、年間実施予定日が変更とならないような血液センターへの配慮、年3

回しっかりとスケジュールに入れたい。

③ 特記事項

・献血活動に協力している。

④ 学校関係者評価委員のコメント

特になし

5 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回、各教職員が自己点検や自己評価により、課題等を再確認や共有できたことは、今後の取組みに反映できるものと思われる。

今後も、自己評価の継続、各委員の意見等を踏まえて教育活動や学校運営等の諸課題の解決に対応し、学校の教育目標である実社会に対し得る人材育成に向けて取り組みたい。